

ノリ業界の現況

—平成 18 年度研修会資料—

平成 18 年 7 月

全国海苔貝類漁業協同組合連合会

も く じ

はじめに	1
I ノリ業界の変遷	2
II ノリ生産動向	4
III ノリ消費動向	7
IV ノリ需給動向	10
V 漁場環境保全	13
VI 資 料	18

はじめに

平成 17 年度ノリ漁期は、生産枚数 99 億 9 千万枚、生産金額 925 億円、平均単価 9 円 26 銭という結果となった。前年と比較して、枚数が 104%、金額が 99%と、枚数では前年を上回ったものの、金額では下回った。ここ数年懸念されている採苗期の高水温だが、17 年度もその例外ではなく先行きに不安感が漂ったが、その後の育苗期にまとまった雨が降り、12 月に入り急に冷え込んで、秋芽生産はまずまずの結果となった。しかし年末に瀬戸内地区で発生した珪藻プランクトンが、年明けに大增殖し、低栄養塩状態が長期間に渡り続いた。一方九州地区では、昨年に引き続き 3 月になっても色のある製品が生産され、色のあるままガサついて生産終了という状況だった。その結果、二年続けて札無しがほとんど出ない漁期となった。

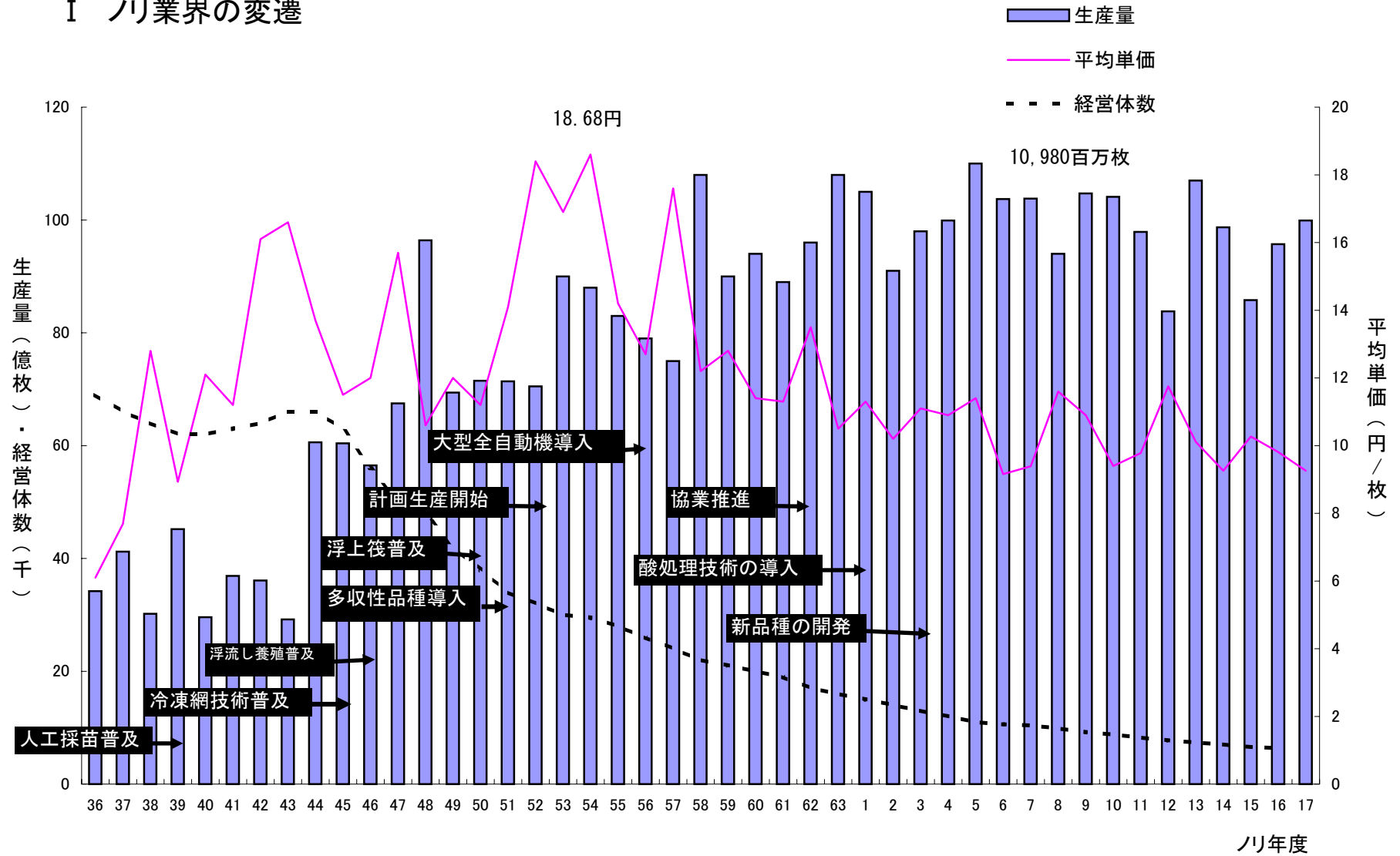
ここ数年、ノリ生産において、地域差、個人差が激しくなっている。かつては地区別の生産比率は、概ね九州 40%、瀬戸内 35%、東日本 25%のことが多かったが、平成 17 年度の場合、その比率は、それぞれ 51%、28%、21%と変化している。九州地区の伸びと瀬戸内地区の低迷が顕著である。こうした地域間格差が広がっているため、豊作となっている地区が不作になれば、一気に全体的な大不作に陥ることになる。17 年度は結果的に 100 億枚にあと一步の生産量を記録したが、実際は綱渡りの様な危うい状況だったのかも知れない。

こうした国内の生産事情の中、17 年度から日本は I Q 枠のグローバル化を決定。18 年度は韓国、中国両国から 5.85 億枚の輸入が決まった。一方、韓国が日本のノリ I Q 制度は W T O 協定に違反するとしてパネル提訴していた問題では、日韓で I Q 枠を 10 年後に 12 億枚まで拡大するとの合意がなされ、それにより韓国は提訴を取り下げた。中国の枠は今後協議されることになるが、その成り行きが心配されている。10 年後というのは、現時点では生産者の数、漁場環境、生産技術、地球温暖化の影響、消費動向など、想像できないが、まずは 2、3 年先のことから考え、対策を立てていくべきだろう。

外国からのノリが今後大量に輸入されるにあたって、日本のノリは外国産ノリとの差別化が必要不可欠となる。消費者に胸を張って安心安全といえるノリを生産することが重要である。それには原料原産地表示をはじめ、産地ブランドの確立や、生産履歴（トレーサビリティ）システムの整備などが課題に上げられる。生産者、加工・流通業者、消費者との間でこれまで築き上げてきた信頼は宝物であるだけに、壊さないよう大事にしたい。

この小冊子はこのようなノリ業界の現況を生産、流通、消費に関わるデータ（資料）によって紹介したもので、平成 18 年度の全海苔連研修会資料として作成した。各位の参考になれば幸いである。

I ノリ業界の変遷



図一1 技術の変遷と生産量、平均単価、経営対数の推移

表－1 ノリ養殖主要指数の推移

	昭和50年	昭和60年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	過去の最高値	
									年	値
経営体数	37,507	20,405	8,274	7,748	7,359	7,029	6,549	6,381	S 36	68,725
施設面積(千㎡)	156,133	125,056	98,684	96,011	93,236	84,769	63,713	63,985	S 49	187,020
※共販出荷量(百万枚)	6,727	9,075	9,679	8,296	10,686	9,846	8,540	9,542	H 13	10,686
※共販金額(百万円)	75,813	103,562	94,644	97,452	108,043	91,205	87,706	93,619	S 54	154,932
※平均単価(円/枚)	11.27	11.41	9.78	11.75	10.11	9.26	10.27	9.81	S 54	18.68
※1経営体当たり施設面積(千㎡)	4.16	6.13	11.92	12.39	12.67	12.06	9.73	10.03	H 13	12.67
※1㎡当たり共販量(枚)	43	73	98	86	115	116	134	149	H 16	149
※1経営体当たり共販量(千枚)	179	445	1,170	1,071	1,452	1,400	1,304	1,495	H 16	1,495
※1経営体当たり共販金額(千円)	2,021	5,075	11,439	12,578	14,682	12,976	13,392	14,672	H 13	14,682
漁家所得(千円)	3,462	5,462	9,499	13,473	12,749	10,973	11,085	11,095	H 12	13,473
漁業所得(千円)	1,912	2,606	5,747	8,013	8,888	7,654	6,918	7,625	H 13	8,888
漁業依存度(%)	55	48	61	59	70	70	62	69	S 53	74

資料：農林水産省「漁業養殖業生産統計年報」、「漁業経営調査報告」 ※は全海苔漁連調査

注：1) 1柵当たりの網規格は、昭和53年まで=18.2m×1.2m、昭和54年以降=18.2m×1.5m

2) 昭和59年より同年報は、昭和49年までさかのぼって漁場面積を施設面積に変更。

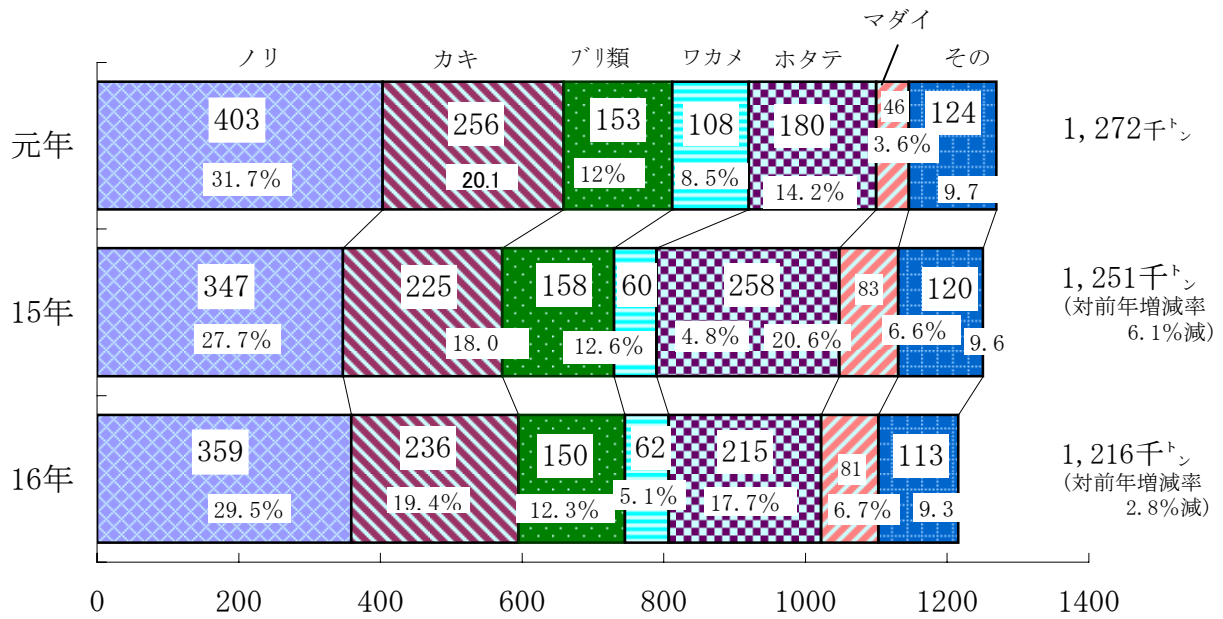
Ⅱ ノリ生産動向

表-2 過去4カ年の県別共販出荷量、平均単価と全国生産量及び生産金額

海苔年度 単位 県名	14年度		15年度		16年度		17年度	
	出荷量 百万枚	単価 円/枚	出荷量 百万枚	単価 円/枚	出荷量 百万枚	単価 円/枚	出荷量 百万枚	単価 円/枚
〔産地共販〕								
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城	797	9.48	705	8.81	652	8.96	790	8.36
千葉	489	11.00	433	11.68	368	11.33	450	10.54
神奈川	18	10.37	18	10.64	17	10.15	16	9.11
愛知	781	10.16	546	10.02	555	10.36	607	9.62
三重	466	8.98	383	9.97	366	9.72	276	8.56
和歌山	1.0	6.59	0.3	6.08	0.0	0.00	0.0	0.00
大阪	3.4	7.18	1.0	7.17	1.9	7.72	3.8	5.35
兵庫	1,734	9.59	1,149	10.05	1,564	9.96	1,474	8.27
岡山	320	7.86	288	7.79	275	9.14	240	7.57
広島	87	5.23	91	7.05	77	8.17	87	7.20
山口	144	7.67	102	10.12	81	8.70	96	8.44
徳島	219	8.76	110	8.20	165	8.92	198	9.08
香川	617	7.42	737	9.23	639	9.89	502	8.31
愛媛	105	6.53	83	8.18	81	8.45	90	7.81
大分	29	5.39	10	5.03	89	5.29	19	5.91
福岡	1,201	9.87	1,130	11.16	1,456	10.31	1,483	10.28
佐賀	1,426	10.25	1,645	11.80	1,927	9.90	2,157	10.43
長崎	28	7.47	26	8.78	24	8.29	28	8.61
熊本	1,208	8.10	963	9.97	1,132	9.22	1,278	8.57
鹿児島	17	8.68	12	10.67	14	10.05	12	9.69
〔消費地共販〕								
全海苔漁連	155	8.27	107	9.87	136	9.25	137	7.79
共販合計	9,846	9.26	8,540	10.27	9,542	9.81	9,944	9.26
生産量(百万枚)	9,879		8,580		9,570		9,990	
生産金額(億円)	915		881		939		925	

(全漁連、全海苔漁連調べ)

〔生産量〕



〔生産額〕

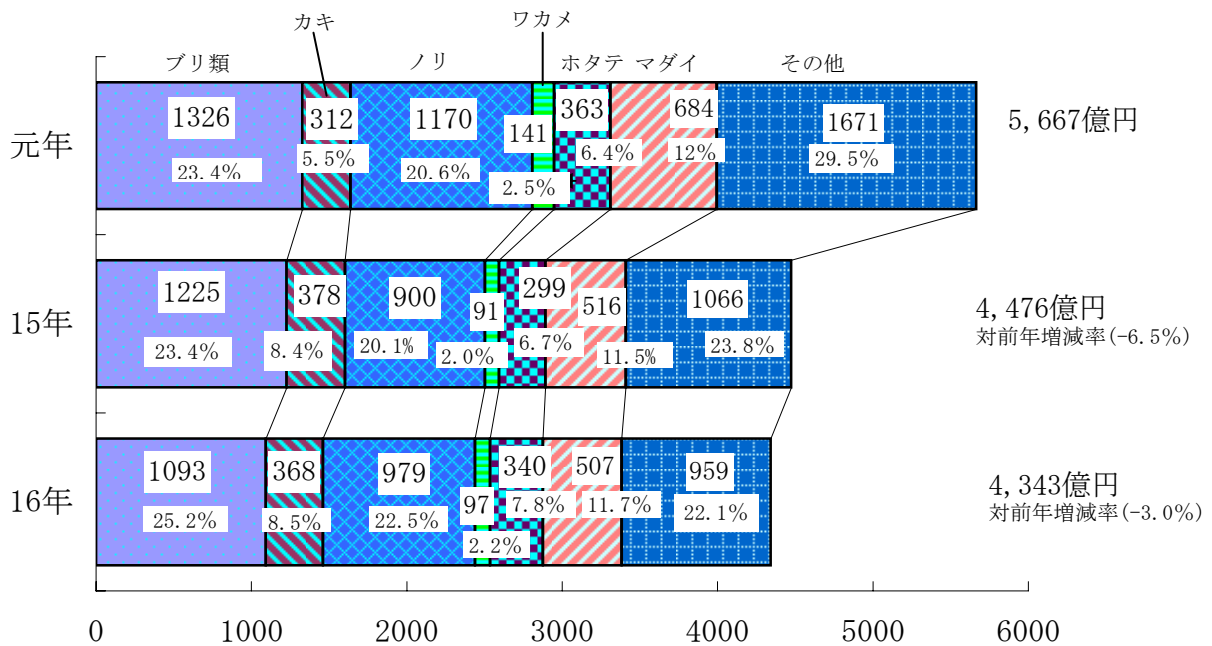


図-3 海面養殖業主要魚種別生産量及び生産額の推移

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

注：1) 生産額の合計には、種苗養殖を含む。

2) 生産量の海藻類は生換算、貝類は殻付重量である。

Ⅲ ノリ消費動向

(1) 平成17年度の相場動向

単価の動きを週ごとにみると、下図の通りである。採苗期は高水温で迎えたが、育苗期の雨と12月に入っての急な冷え込みによりまずまずの秋芽生産となり、年内の相場は冷静に推移した。しかし瀬戸内では年明けに珪藻プランクトンが大増殖し、色落ちに見舞われた地区が多かった。この様相を受けて業務用の絶対量が不足し、相場は年内と一変して過熱した。一方有明海では3月になっても色のある製品が生産され、2年連続で好調な生産だった。その結果全国的にも札無しがほとんど発生しない年となった。

(2) 全般的な消費動向

歳暮、中元は法人需要には回復の兆しが現われないが、個人ギフトには底入れ感が出てきた。とはいえ伝統的な定番ギフトであるノリは百貨店にみる売り上げランキングでかろうじてベスト10に入るといふ、振るわない状況が続いている。また家庭用にしても消費拡大に結びつく新用途の開発が望まれるが、目立った成果は上がっておらず、消費は横ばい傾向にある。

一方、業務用消費は、引き続きコンビニエンスストアのおにぎり商品が需要の中心を成し、ノリや具材を高級化した商品展開も進められているが、ノリの使用量が少ないものもあり、一時期の消費拡大の勢いは見られなくなっている。立ち筋のすし店は外食産業規模推計資料からすると相変わらず低迷している。新たな消費形態づくりが求められている。

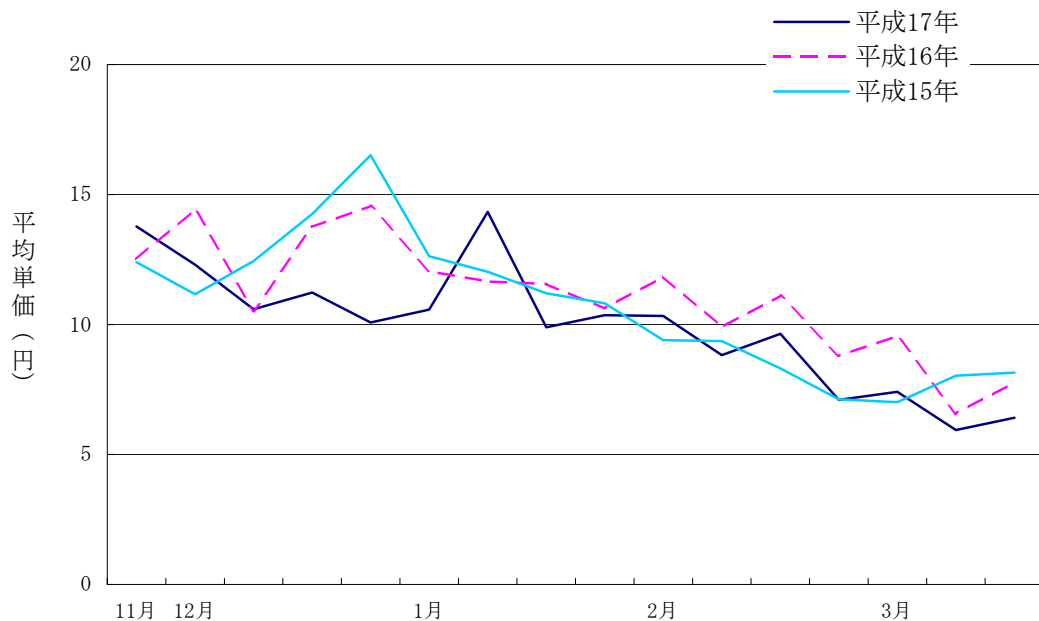


図-4 過去3カ年の平均単価の推移(週別「海苔速報」から)

注：11月は共販開始から27日までの累計平均値、3月は26日までの結果

2. 用途別推定消費量

表-3 ノリ推定消費量(率)の推移

[単位：率は%、枚数は億枚]

	平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	率	枚数	率	枚数	率	枚数	率	枚数	率	枚数
贈答用消費	8	8	7	7	7	7	6	6	5	5
業務用消費	62	63	62	63	63	64	62	59	64	60
家庭用消費	30	30	31	32	30	31	32	30	31	29
合計	100	101	100	102	100	102	100	95	100	94

注：年度区分は前年12月～11月

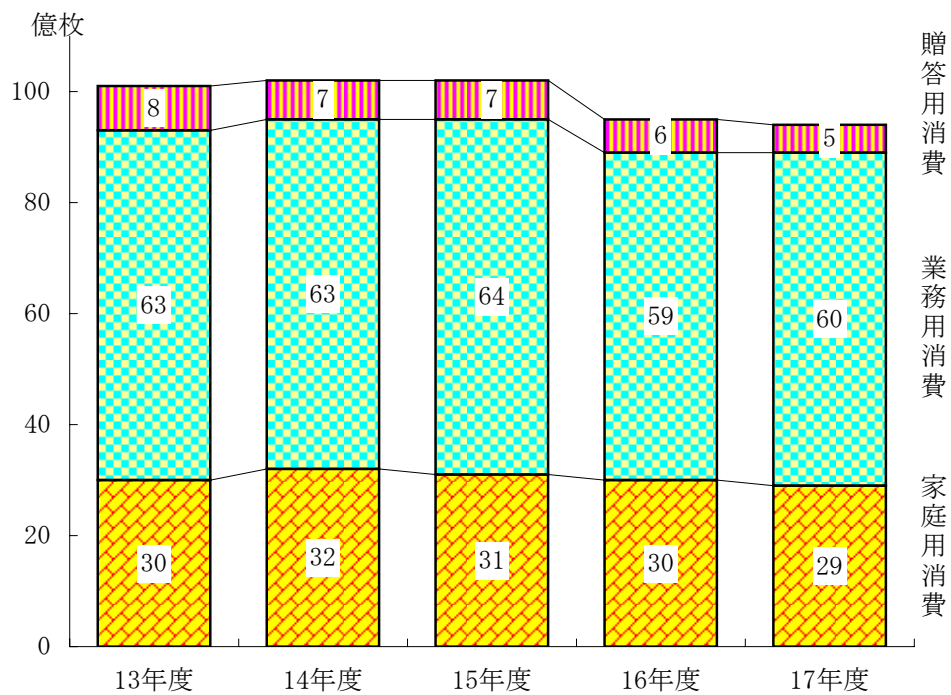


図-5 ノリ推定消費量の推移〔単位：億枚〕

表-4 最近3カ年のノリ輸出数利用及び金額と順位

順位	期間・単位	平成17年(1~12月)		平成16年(1~12月)		平成15年(1~12月)	
		数量	金額(千円)	数量	金額(千円)	数量	金額(千円)
第一位	国名	アメリカ合衆国		アメリカ合衆国		アメリカ合衆国	
	干ノリ(千枚)	11,051	180,144	8,404	145,616	8,644	149,893
	焼・味(kg)	90,761	280,349	69,603	258,306	50,895	225,363
	小計		460,493		403,922		375,256
第二位	国名	台湾		オランダ		台湾	
	干ノリ(千枚)	2,734	18,636	918	21,712	1,903	12,738
	焼・味(kg)	31,770	72,931	9,040	59,496	48,836	72,991
	小計		91,567		81,208		85,729
第三位	国名	オランダ		台湾		香港	
	干ノリ(千枚)	819	16,699	1,781	10,999	256	3,749
	焼・味(kg)	19,795	72,670	34,031	64,436	38,693	68,883
	小計		89,369		75,435		72,632
輸出総合計	干ノリ(千枚)	31,009	289,455	13,074	204,738	12,961	203,476
	焼・味(kg)	292,796	832,794	200,622	726,386	207,254	670,276
	合計		1,122,249		931,124		873,752

財務省関税局貿易統計

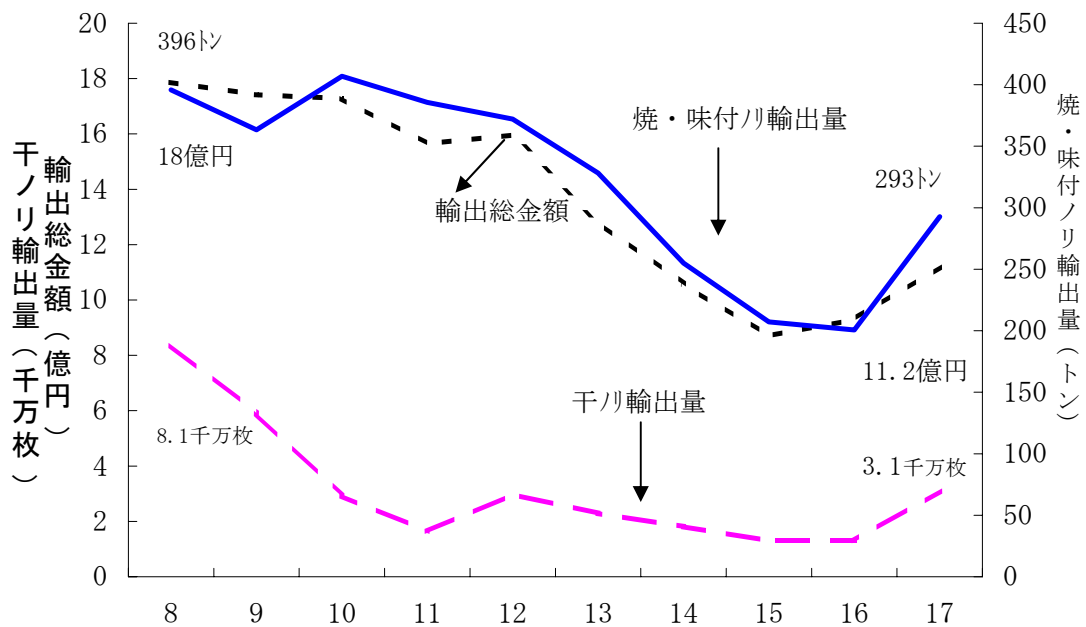


図-6 過去10カ年の輸出の推移

IV ノリ需給動向

1. 計画生産

(1) 趣 旨

- ① 需要に見合った適正生産量の確保
- ② 製品向上－消費者に歓迎されない粗悪品の排除
- ③ 漁家経営の合理化

(2) 具体的対策(平成17年度漁期対策より)

- ① 共販期間の設定－地域の実情にあわせ140日を基準とする。
- ② 不良品対策－全国最低基準価格：3円(3円未満は不良品として消却)
- ③ 製品向上対策－消費者嗜好に基づく「うまい海苔作り」を推進し、選別、厳正検査の徹底を図り消費拡大につなげる。

表－5 「計画生産」の推移

注) 年度はノリ年度

年度	目標生産量 (百万枚)	生産量 (百万枚)	達成率 (%)	生産金額 (億円)	平均単価 (枚/円)	1 経営体当たり 生産金額(万円)・指数	
49	7,000	6,940	99	836	12.04	197	100
50	6,500	7,150	110	806	11.27	215	109
51	6,800	7,146	105	1,012	14.16	301	153
52	7,100	7,050	99	1,298	18.41	409	208
53	7,300	9,000	123	1,521	16.90	503	255
54	8,000	8,800	110	1,634	18.68	553	281
55	7,500	8,300	111	1,180	14.22	417	212
56	7,500	7,900	105	1,004	12.71	379	192
57	7,500	7,500	100	1,320	17.60	540	274
58	7,500	10,800	144	1,319	12.21	598	304
59	8,000	9,000	113	1,159	12.88	544	276
60	8,000	9,400	118	1,073	11.41	526	267
61	8,000	8,900	111	1,011	11.36	535	272
62	8,000	9,600	120	1,305	13.59	754	384
63	8,000	10,800	135	1,137	10.53	698	354
元	9,000	10,500	116	1,159	11.30	759	385
2	9,000	9,100	101	929	10.21	654	332
3	8,500	9,800	115	1,096	11.18	817	415
4	8,860	9,990	113	1,093	10.94	899	456
5	8,800	10,980	125	1,252	11.40	1,113	565
6	9,800	10,370	106	950	9.16	893	453
7	9,800	10,380	106	975	9.39	941	478
8	9,500	9,350	98	1,084	11.59	1,095	556
9	9,500	10,470	110	1,136	10.85	1,237	628
10	9,500	10,410	110	979	9.40	1,114	565
11	9,500	9,790	103	958	9.78	1,158	588
12	9,500	8,380	88	985	11.75	1,271	645
13	10,000	10,740	107	1,086	10.11	1,476	749
14	9,500	9,879	104	915	9.26	1,302	661
15	9,500	8,580	90	881	10.27	1,345	683
16	9,500	9,570	101	939	9.81	1,472	747
17	9,500	9,990	105	925	9.26	-	-

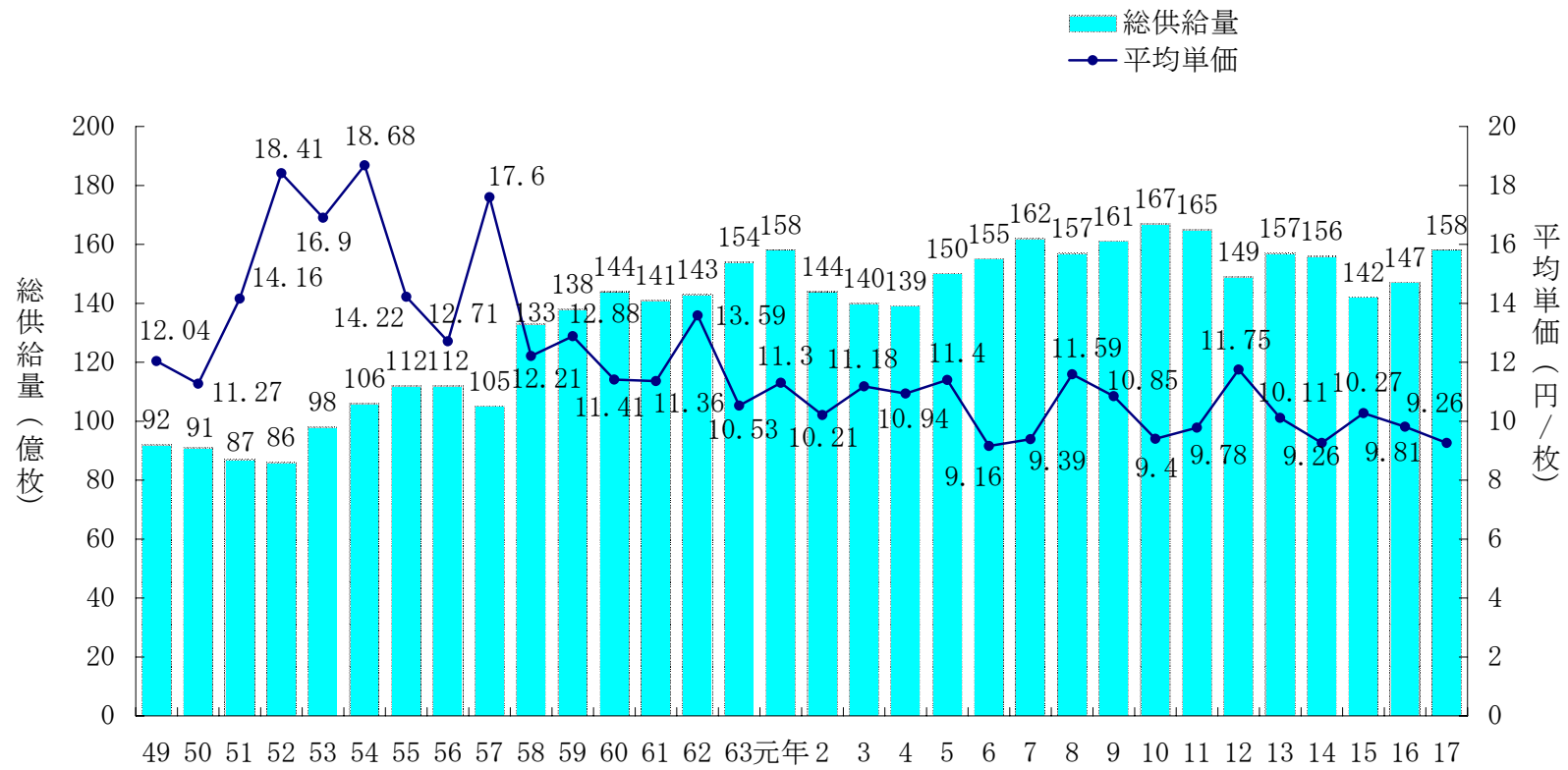
2. 需給動向

表－6 需給動向の推移

[単位：百万枚]

年 度	49	59	9	10	11	12
()内はノリ年度	(48)	(58)	(8)	(9)	(10)	(11)
(1) 生産量	9,640	10,800	9,350	10,470	10,410	9,790
(2) 前年繰越量	1,000	2,500	6,334	5,616	6,238	6,617
(3) 韓国ノリ	-	-	32	52	69	120
(4) 総供給量 (1)+(2)+(3)	10,640	13,300	15,716	16,138	16,717	16,527
(5) 推定消費量	8,400	8,500	10,100	9,900	10,100	10,200
(6) 翌年繰越 (4)-(5)	2,200	4,800	5,616	6,238	6,617	6,327

年 度	13	14	15	16	17	18
()内はノリ年度	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)
(1) 生産量	8,380	10,740	9,879	8,580	9,570	9,990
(2) 前年繰越量	6,327	4,757	5,477	5,366	4,686	5,256
(3) 外国産ノリ	150	180	210	240	400	585
(4) 総供給量 (1)+(2)+(3)	14,857	15,677	15,566	14,186	14,656	15,831
(5) 推定消費量	10,100	10,200	10,200	9,500	9,400	-
(6) 翌年繰越 (4)-(5)	4,757	5,477	5,366	4,686	5,256	-



図ー7 「計画生産」実施後の総供給量、平均単価の動き

V 漁場環境保全

－水産庁・水質汚濁等による突発的漁業被害発生報告書(平成16年度)から－

1. 海面における漁業被害（平成16年度）

海面における水質汚濁等による突発的漁業被害は、発生件数50件（うち被害金額が不明の件数29件）、被害金額25.06億円で、前年度と比較した場合、発生件数は20.6%減少、被害金額は10.0%増加している。

表－7 平成16年度の海面漁業被害の発生状況

		油		赤 潮		油・赤潮以外		計	
		件	%	件	%	件	%	件	%
16年度	発生件数	8(3)	16.0	31(20)	62.0	11(6)	22.0	50(29)	100.0
	被害額	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
		94,768	3.8	2,376,456	94.8	34,769	1.4	2,505,993	100.0
15年度	発生件数	15(2)	23.8	39(22)	61.9	9(4)	14.3	63(28)	100.0
	被害額	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
		77,964	3.4	2,128,906	93.5	70,582	3.1	2,277,452	100.0
16年度 ／ 15年度	発生件数	53.3%		79.5%		122.2%		79.4%	
	被害額	121.6%		111.6%		49.3%		110.0%	

(注) 発生件数欄の()書きは、被害額不明件数で内数である。

(1) 油 濁 被 害

表－8 原因者不明漁業被害の救済実績〔(財)漁場油濁被害救済基金〕

－水質汚濁による突発的漁業被害発生報告書(水産庁)より－

(4～3月統計、単位：件、百万円)

	合 計		救 済 金		防 除 費		併 発 件 数
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	
昭和50年度	25	189	7	143	23	46	5
51	66	263	14	173	64	91	12
52	69	159	14	74	65	85	10
53	95	220	9	86	94	135	8
54	80	391	12	223	79	169	11
55	63	276	14	191	56	85	7
56	54	378	17	285	44	93	7
57	40	284	8	165	35	118	3
58	45	236	6	107	41	129	2
59	46	169	10	65	46	104	10
60	49	438	10	306	49	132	10
61	36	94	2	27	35	66	1
62	35	93	2	40	35	53	2
63	32	103	6	38	32	65	6
平成元年	41	172	7	79	41	92	7
2	28	128	4	69	28	59	4
3	28	139	3	62	28	77	3
4	22	81	1	13	22	68	1
5	15	23	2	8	15	15	2
6	19	50	2	21	19	29	2
7	16	50	3	22	16	28	3
8	24	69	1	15	24	54	1
9	14	52	5	25	14	27	5
10	13	56	1	19	13	37	1
11	6	12	0	－	6	12	0
12	8	7	0	－	8	7	0
13	9	8	1	1	9	7	1
14	6	12	0	－	6	12	0
15	16	12	1	11	16	27	1
16	4	6	0	－	4	6	0

注：金額は万円以下切り捨てて集計した。

(2) 赤潮によるもの

平成16年度の赤潮による漁業被害は、発生件数31件(うち被害金額が不明の件数20件)被害金額約23.8億円であった。播磨灘及び有明海においてケイ藻赤潮による養殖ノリの色落ち被害が発生したほか、コックロディニウムやシャットネラによる養殖や天然の魚介類のへい死が多くみられた。

表－9 平成12年度～平成16年度の赤潮による漁業被害の発生状況

(被害金額：千円)

年度	項目	伊勢湾・熊野灘地区		瀬戸内海地区		九州地区		その他地区		計	
12	発生件数	10	23.8	8(4)	19.0	22(7)	52.4	2(2)	4.8	42(13)	100
	被害金額	44,082	1.0	39,940	0.9	4,356,224	98.1	-	-	4,440,246	100
13	発生件数	2(1)	5.4	3	8.1	22(11)	59.5	10(7)	27.0	37(19)	100
	被害金額	40	0.0	14,008	2.8	412,181	83.2	69,200	14.0	495,429	100
14	発生件数	2	6.1	8(3)	24.2	20(14)	60.6	3(2)	9.1	33(19)	100
	被害金額	858	0.1	175,829	20.5	666,245	77.7	15,000	1.7	857,932	100
15	発生件数	3(3)	7.7	11(3)	28.2	21(12)	53.8	4(4)	10.3	39(22)	100
	被害金額	0	0.0	1,270,567	59.7	858,339	40.3	-	0.0	2,128,906	100
16	発生件数	5(4)	16.1	11(4)	35.5	15(12)	48.4	0(0)	0.0	31(20)	100
	被害金額	30	0.0	2,142,342	90.1	234,084	9.9	-	0.0	2,376,456	100

資料：水産庁「水質汚濁による突発的漁業被害発生報告書－平成16年度」より

(注) 発生件数欄の()書きは、被害金額が不明の件数で内数である。

水産用水基準と生活環境の保全に関する環境基準(環境省)との対比

項目	河川		湖沼		海域	
	水産用水基準	環境基準	水産用水基準	環境基準	水産用水基準	環境基準
pH	6.7-7.5	類型 A 6.5-8.5 B 6.5-8.5 C 6.5-8.5	6.7-7.5	類型 A A 6.5-8.5 A 6.5-8.5 B 6.5-8.5	一般 7.8-8.4	類型 A 7.8-8.3 B 7.8-8.3
BOD (mg/l以下)	自然繁殖(一般) 3 自然繁殖(サケ・マス・アユ) 2 成育(一般) 5 成育(サケ・マス・アユ) 3	類型 A 2 B 3 C 5	—	—	—	—
COD (mg/l以下)			自然繁殖(一般) 4 自然繁殖(サケ・マス・アユ) 2 成育(一般) 5 成育(サケ・マス・アユ) 3	類型 A A 1 A 3 B 5	一般 1 ノリ養殖場 2	類型 A 2 B 3
SS (mg/l以下)	一般 25 人為的 5	類型 A 25 B 25 C 50	サケ・マス・アユ 1.4 温水性魚類 3.0	類型 A A 1 A 5 B 15	人為的 2	
DO (mg/l以上)	一般 6 サケ・マス・アユ 7	類型 A 7.5 B 5 C 5	一般 6 サケ・マス・アユ 7	類型 A A 7.5 A 7.5 B 5	一般 6 内湾夏季底層 4.3	類型 A 7.5 B 5
大腸菌群数 MPN/100ml以下	一般 1,000	類型 A 1,000 B 5,000	一般 1,000	類型 A A 50 A 1,000	一般 1,000 生食用サケ 70	類型 A 1,000 生食用サケ 70
全窒素 (mg/l以下)			サケ・アユ 0.2 ワカサギ 0.6 コイ・フナ 1.0	類型 II 0.2 IV 0.6 V 1	水産1種 0.3 2種 0.6 3種 1.0 ノリ養殖 0.07-0.1	類型 II 0.3 III 0.6 IV 1
全磷 (mg/l以下)			サケ・アユ 0.01 ワカサギ 0.05 コイ・フナ 0.1	類型 II 0.01 IV 0.05 V 0.1	水産1種 0.03 2種 0.05 3種 0.09 ノリ養殖 0.007-0.014	類型 II 0.03 III 0.05 IV 0.09
n-ヘキサン抽出物質 (油分等)	検出されないこと		検出されないこと		検出されないこと	類型 A 検出されないこと B 検出されないこと

注1 ーは基準値が設定されていない。

注2 水産用水基準の海域と環境基準のノリ養殖利水点CODはアルカリ法、環境基準の海域・類型BのCODは酸性法による値である。

水産用水基準と人の健康の保護に関する環境基準(環境省)との対比

(単位：mg/l以下)

項 目	水 産 用 水 基 準		環 境 基 準
	淡 水 域	海 域	
カドミウム	検出されないこと	検出されないこと	0.01
全シアン	0.005	0.001	検出されないこと
鉛	0.003	0.003	0.01
六価クロム	0.0002	0.01	0.05
砒素	0.01	0.01	0.01
総水銀	0.0002	0.0001	0.0005
アルキル水銀	検出されないこと	0.001	検出されないこと
P C B	検出されないこと	検出されないこと	検出されないこと
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.02
四塩化炭素	0.002	0.002	0.002
1,2-ジクロロエタン	0.004	0.004	0.004
1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.02	0.02
シス-1,2-ジクロロエチレン	-	-	0.04
1,1,1-トリクロロエタン	0.5	0.5	1
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	0.006	0.006
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.03
テトラクロロエチレン	0.01	0.002	0.01
1,3-ジクロロプロペン	0.002	0.002	0.002
チウラム	検出されないこと	-	0.006
シマジン	0.003	-	0.003
チオベンカルブ	0.001	0.02	0.02
ベンゼン	0.01	0.01	0.01
セレン	0.002	0.01	0.01
硝酸態窒素	9	7	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
亜硝酸態窒素	0.03	0.06	10
ふっ素	0.8	1.4	0.8
ほう素	検出されないこと	4.5	1
ダイオキシン	1pgTEQ/L	1pgTEQ/L	1pgTEQ/L

- : 基準値が設定されていない。

水産用水基準と要監視項目の指針値(環境省)の対比

(単位：mg/l以下)

項 目	水 産 用 水 基 準		環 境 基 準
	淡 水 域	海 域	
クロロホルム	0.05	0.06	0.06
トランス-1,2-ジクロロエチレン	-	-	0.04
1,2-ジクロロプロパン	0.06	0.06	0.06
p-ジクロロベンゼン	0.1	0.07	0.2
イソキサチオン	検出されないこと	検出されないこと	0.008
ダイアジノン	検出されないこと	検出されないこと	0.005
フェニトロチオン	検出されないこと	検出されないこと	0.003
イソプロチオラン	0.04	0.04	0.04
オキシ銅	0.006	-	0.04
クロロタロニル	0.001	0.002	0.05
プロピザミド	0.008	-	0.008
EPN	検出されないこと	検出されないこと	0.006
ジクロルボス	検出されないこと	検出されないこと	0.008
フェノブカルブ	検出されないこと	0.003	0.03
イプロベンホス	検出されないこと	0.008	0.008
クロルニトロフェン	0.0009	0.08	-
トルエン	0.4	0.3	0.6
キシレン	0.4	-	0.4
フタル酸ジエチルヘキシル	0.001	0.06	0.06
ニッケル	0.004	0.007	-
モリブデン	0.07	0.07	0.07
アンチモン	0.008	0.4	0.02
マンガン	0.2	0.2	0.2

- 基準値又は指針値が設定されていない。

(注)「水産用水基準」(2005年版、日本水産資源保護協会編)より抜粋

VI 資料

(別表) ◎H5～H18年外国産海苔輸入数量の経緯 (単位：枚数・万枚、平均・1枚円)

年/項目	輸入枚数	商社割当 A	同 B	同 C	需要者割当	先着順割当	平均値
H18年(%)	58,500(100)	19,300(32.99)	—	4,000(6.84)	33,700(57.61)	1,500(2.56)	
H17年(%)	40,000(100)	5,200(13.00)	500(1.25)	4,000(10.00)	24,400(61.00)	5,900(14.75)	10.04
H16年(%)	24,000(100)	4,220(17.58)	150(0.63)	—	14,800(61.67)	4,830(20.13)	9.66
H15年(%)	21,000(100)	3,620(17.24)	—	—	13,000(61.90)	4,380(20.86)	9.16
H14年(%)	18,000(100)	3,020(16.78)	—	—	11,200(62.22)	3,780(21.00)	11.39
H13年(%)	15,000(100)	2,420(16.13)	—	—	9,400(62.67)	3,180(21.20)	12.83
H12年(%)	12,000(100)	1,900(15.83)	—	—	7,600(63.33)	2,500(20.83)	9.80
H11年(%)	6,900(100)	1,800(26.09)	—	—	4,600(66.67)	500(7.25)	8.99
H10年(%)	5,224(100)	—	—	—	5,524(100)	—	8.05
H9年(%)	3,216(100)	—	—	—	3,216(100)	—	8.52
H8年(%)	1,043(100)	—	—	—	1,043(100)	—	8.59
H7年(%)	936(100)	—	—	—	936(100)	—	5.98
H6年	—	—	—	—	—	—	—
H5年(%)	240(100)	—	—	—	240(100)	—	8.50

注：H5～H16までは韓国産のみ。H17以降はノリ IQ 枠のグローバル化にともない韓国産に加え中国産が含まれる。

H17～18 外国産ノリ輸入実績

平成 17 年 2 月 18 日経済産業省より、平成 17 年度「のり」輸入割当が発表された。

需要者割当 ((社)のり協会分)	2 億 4,400 万枚
商社割当 (実績割当)	9,700 万枚
先着順割当	5,900 万枚
合計	<u>4 億枚</u>

需要者割当 ((社)のり協会分)	242,072,054 枚		
乾ノリ①落札枚数	99,366 千枚	5 月 18 日	韓国・ソウル市
岩ノリ	： 約 14 百万枚		
黒ノリ	： 約 32 百万枚		
半岩ノリ	： 約 53 百万枚		
平均単価	8.72 円/枚		
②落札枚数	80,207 千枚	6 月 2 日	中国・連雲港市
平均単価	8.70 円/枚		
合計	<u>179,573,500 枚</u>		
味付けノリ 成約枚数	62,498,454 枚		
平均単価	13.56 円/枚		

平成 18 年 2 月 28 日経済産業省より平成 18 年度「のり」輸入割当が発表された。

韓国枠	3 億 4,000 万枚
中国枠	2 億 3,000 万枚
グローバル枠	1,500 万枚
合計	<u>5 億 8,500 万枚</u>

(内訳)

乾ノリ 需要者割当 ((社)のり協会分)	2 億 57 百万枚
商社割当	1 億 6 百万枚
先着順割当	5 百万枚
合計	<u>3 億 68 百万枚</u>

無糖味付けノリ

需要者割当 ((社)のり協会分)	65 百万枚
商社割当	87 百万枚
先着順割当	5 百万枚
合計	<u>1 億 57 百万枚</u>

(内訳) つづき

ノリ調整品 (焼ノリ、加糖味付けノリ (佃煮を含む) 等)

需要者割当 ((社)のり協会分) 15 百万枚

商社割当 40 百万枚

先着順割当 5 百万枚

合計 60 百万枚

需要者割当 ((社)のり協会分)

乾ノリ①落札枚数 95,493 千枚 5月18日 韓国・ソウル市

平均単価 8.47 円/枚

②落札枚数 90,613 千枚 6月2日 中国・南通市

平均単価 8.80 円/枚

合計 186,106,400 枚

味付けノリ 成約枚数 60,401,986 枚

平均単価 12.94 円/枚